

活動実績 (2020年6月~11月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:南岸6/27(土),10/17(土)、北岸7/18(土),8/18(火),9/12(土),11/21(土)
 - 宮古島ワークショップ
 - ・第10回水と緑の集い:10/18(日)
 - 出前講座
 - ・美ら夢こども園:6/27(土)
 - ・沖縄水産高校:8/20(木)
 - ・沖縄大学:11/25(水)
 - 団体受入
 - ・JOCA沖縄:7/21(火)
 - ・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー@恩納村:10/11(日)
 - ・福山市立幸千中学校:11/11(水)
 - エコツアー
 - ・ライトトラップを仕掛けて夜に活動する虫たちを観察しよう!:7/24(金),10/31(土),11/1(日)
 - イベント出展
 - ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル(デジタルコンテンツ):11/14(土)~12/27(日)
 - OECエコガイド研修:11/4(水),11/5(木),11/6(金)

活動計画 (2020年12月~2021年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動:南岸12/12(土)、以降 北岸or南岸で毎月開催予定
 - 団体受入
 - ・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー@八重瀬町:12/5(土)
 - ・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー@宜野座村・金武町:12/19(土)
 - ・兵庫県立神戸北高等学校:1/19(火)
 - ・東京都立武蔵高等学校:1/27(水)
 - ・広島県立呉美津田高等学校:2/8(月)
 - ・共愛学園高等学校:2/9(火)
 - ・奈良学園登美ヶ丘中学校:2/16(火)
 - ・済美平成中等教育学校:2/22(月)
 - ・神奈川県立厚木高等学校:4/4(日)
- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA研修員受入事業:課題別研修(遠隔研修)「熱帯・亜熱帯におけるエコリズム企画・運営(A)」:1/11(月)~2/5(金)
 - ・JICA研修員受入事業:課題別研修(遠隔研修)「熱帯・亜熱帯におけるエコリズム企画・運営(B)」:2/8(月)~3/5(金)

お知らせ

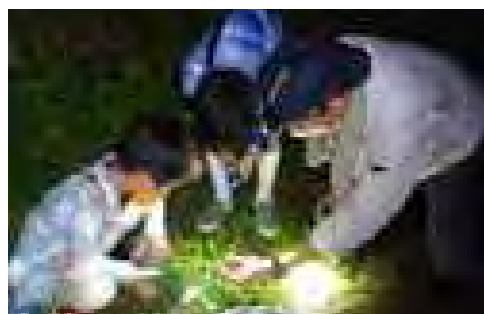
会員・ボランティア募集

- 入会申し込みは、ホームページから。
- 緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しております。お気軽にお問い合わせください。

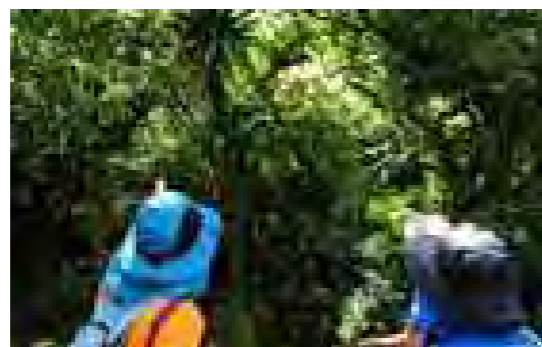
達人デリバリー(出前講座) ミライへ・プロジェクト(団体受入)

- 申し込み、問い合わせはこちらまで!
- TEL 098-833-9493
- e-mail gyomu@npo-oec.com

活動アルバム



7月24日エコツアー(ライトトラップ)の様子



7月21日団体受入(JOCA)@末吉公園



7月21日団体受入(JOCA)では河岸のごみ調査・ごみ拾いも行った



6月27日出前講座(美ら夢こども園)では末吉公園の自然を楽しんだ



10月18日宮古島での第10回水と緑の集い

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

〒902-0075
 沖縄県那覇市宇国場370番地307号室
 TEL 098-833-9493
 FAX 098-833-9473

ホームページ
<http://www.npo-oec.com>
 e-mail kokuba@npo-oec.com

www.facebook.com/OkiEnv

OEC ニュースレター

~自然と環境の保全是足元から~
 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ(OEC)

vol.35
 2020年12月発行

【1面】
 ・団体受入新メニュー登場!
 ・学校教材づくりに挑戦!

【2面】
 ・新型コロナ感染拡大防止の取り組み
 ・サポーターの声
 ・水辺の緑化ボランティア活動再開

【3面】
 ・マングローブのつぶやき
 ・赤土ツアー@やんばる

【4面】
 ・活動実績
 ・活動報告
 ・お知らせ
 ・活動アルバム

ボランティアちゃん
 ©2020 OEC

トピック① 団体受入新メニュー登場!

今年度、おきなわ環境クラブ(OEC)は団体受入の環境学習プログラムメニューを従来から実施してきた漫湖の「街なかマングローブ、生きもの、人の暮らし」コースに次の3つのコースを加え、今後増加が見込まれる修学旅行生の受入体制を整えている。

「末吉公園で石灰岩植生と南国植物に触れる」コースでは、起伏に富んだ末吉公園内を散策しながら南国の動植物を体感してもらいつつ、都市部の公園のあり方をSDGsの観点から考える。

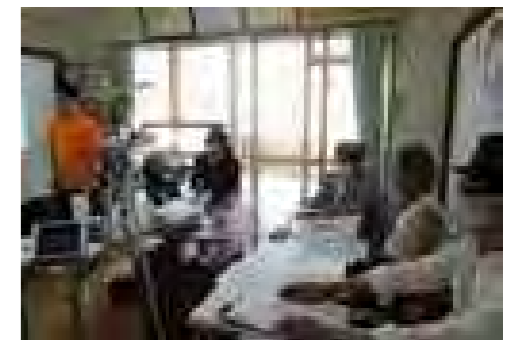
「街なかダムで学ぶ!沖縄の文化と防災ハブ対策」コースでは、那覇の水害防止の役割を果たす金城ダムで琉球王朝時代の名残を感じ、ハブの生態や防除対策、そして外来魚種の問題について学ぶ。

「世界遺産『識名園』で琉球のおもてなしの庭を楽しむ」では、中国からの客人をもてなす工夫を凝らした庭園を楽しみつつ、OECらしく園内の様々な動植物の解説

も行う。
 初年度の今年は、あいにく新型コロナウイルス感染症の流行で修学旅行の受け入れはキャンセル続き。年を越してからの受け入れを数件予定しているが、第三波の到来を受け、さてどうなることやら。

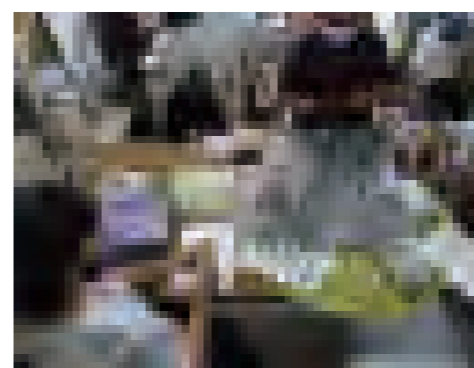
ガイド研修を行い、ウィズ・コロナのプログラム実施ガイドラインも整え、後は受け入れるばかりである。コロナ禍の一日も早い収束を願う。

(事務局長 立田亜由美)



WEB研修(ハイブリッド型)の様子

トピック② 学校教材づくりに挑戦!(国場川ごみゼロ作戦)



検討会議の様子

OECは今年度、(株)沖縄TLO募集による令和2年度沖縄県産業振興基金事業を活用した「令和2年度産学官連携推進ネットワーク形成事業」に採択いただき、「水辺の散乱ゴミ発生抑制のための環境学習学校教材の開発に向けての可能性調査」に取り組んでいる。

当事業では琉球大学教育学部教職大学院の藏満逸司(くらみついつし)准教授と連携し、深刻化する散乱ゴミの課題と身近な課題とを関連付け、参加型で学ぶことのできる実践的学校教育教材を開発することを目指している。

半期が終了し、アンケート調査の結果が



講義の様子

ら実際の教育現場での取り組みを知ることができたり、検討会議では教材に関する様々なアイデアが出てきたりと内容は充実している。現在、3点の教材を重点的に作成しており、11月20日(金)の教職大学院の講義では、現職教員の学生の皆様に教材の試作品を実際に体験してもらい、気になった点や改善案について沢山の貴重なご意見をいただいた。

今後は、引き続き教材を用いた授業の実践やその効果検証などを行っていく予定だ。楽しみながら学ぶことのできる教材を目指しているので、完成をお楽しみに!

(研究員 金城明子)

トピック③ 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

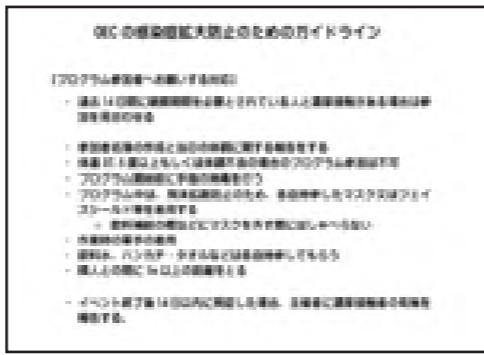
OECは、7月、緊急事態宣言解除に伴う活動再開時に、新しい生活様式に沿った新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインを定めた。

各スタッフはしっかり体調管理を行い、マスク又はフェイス/マウスシールドを使って飛沫拡散防止。参加者には、まず非接触型の体温計で検温と健康チェック、手指の消毒をしてから、マスクを着けてプログラムに参加していただいている。マスクを忘れた参加者のために、配布された“アベ

ノマスク”が活用されている。万が一感染者が出た時のために、受付の際には必ず連絡先も伺っている。これからの寒い季節は風邪やインフルエンザの予防にも気を付け、多少寒くても換気を行うことを忘れない。

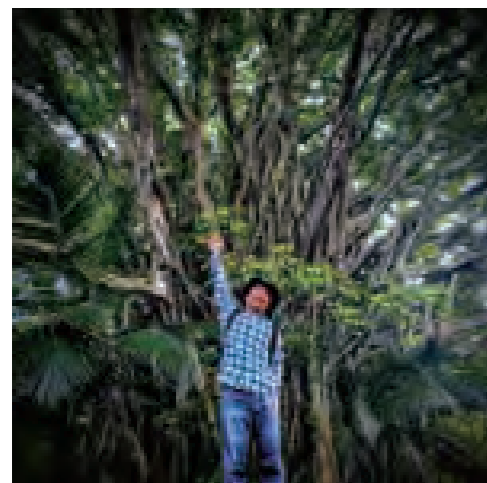
感染拡大防止対策も期間が長くなると気のゆるみが出るが、油断大敵だ。

(事務局 立田亜由美)



参加者、スタッフの両方の対応を定めている

トピック④ サポーターの声：おきなわスローツアー-高野純一さん



国際通りの裏にあるガジュマルと高野さん

高野さんは、主に那覇市の国際通り周辺の残された自然と街並みをゆったりとしたペースで案内するフリーガイド兼イラストレーター。OECとは16年来の付き合いだ。自称「沖縄という博物館の学芸員」の高野さんは、ディープな沖縄の楽しさを世界に発信すると意欲満々。OECへの要望を聞いたところ、「頑張ってください」と冗談交じりにいつもの口癖が出てきた。OEC…頑張ります。高野さんの情報は【おきなわスローツアー】で検索。

(研究員 高嶺正満)

報告① 水辺の緑化ボランティア活動再開



8月 漫湖南岸での取り組みに対し国土交通大臣賞をいただいた

新型コロナ禍の中ではボランティア募集も自粛となったが、8月の緊急事態宣言解除後の9月から一般参加を呼び掛けている活動を本格的に再開している。

新型コロナウイルスはまだ予断を許さない状況ではあるが、現在は検温やマスク等の着用、アルコール消毒の徹底など、感染症対策につとめながら活動中。ゆんたくに花を咲かせるなど、やはりみんなで活動すると楽しい。これから春までの活動しやすい季節、マスク着用で奮ってご参加ください。

(研究員 金城明子)



活動はマスク着用



サガリバナの苗づくり



先生に手伝ってもらって赤土流出防止のためのグリーンベルトを植栽中



透視度計を使って水質調査

コラム マングローブのつぼみやき~その17~ 花の時期を迷っている？

温暖化のせいなのか？マングローブとそのまわりの植物の開花のピークがはつきりしなくなっている。オヒルギが年明けの1~2月につぼみと成熟した胎生種子をつけ、サガリバナが11月の今も花を咲かせ実をつけており、そして分布の北限が石垣島であったゴバンノアシも宮古島で今でも花を咲かせ、実をつけている。これら3種に共通していることは、開花と実の時期が長くなっていることだ。

沖縄本島や宮古島の气象台によると、この100年で年間平均気温が那覇で1.2℃宮古島で1.4℃の上昇を記録している。



宮古島川満のオヒルギ(2019年12月)

この頃、沖縄では春や秋の季節感が薄くなって四季の感覚がなくなり、いきなりの夏と少し暖かい冬を感じ、最も寒い時期でさえ車のクーラーをつけることもある。オヒルギは、本来、成熟した胎生種子のピークが毎年5月ごろであった。しかし、近年は3~4ヶ月も早い1~2月につぼみと成熟した胎生種子をつける。

サガリバナの花は6月下旬から7月初旬の約2週間をピークに、少数ながら秋ごろまで咲き続ける。しかし、この頃は開花のピークがはつきりなくなり、今年いっぱい相当数がつぼみをつけそうで、今も実をつけている。また、これも温暖化のせいなのか、花が咲き果実をつけ、落果し

た花軸の先に葉をつけ、更にその先に花軸を伸ばし、つぼみを付けている株が宮古島で見られる。

ゴバンノアシは石垣島が分布の北限とされてきた。これもまた温暖化のせいなのか、近年では分布がより北の島々まで広がり、沖縄本島でも冬の寒さで枯れることが無い。開花の時期は8~9月であったが、宮古島では今年いっぱい花と果実が見られそうだ。(会長 下地邦輝)

宮古島添道サガリバナ群生地(2020年11月)



宮古島川満のゴバンノアシ(2020年11月)

報告② 赤土ツアー-@やんばる

このツアーは沖縄県の「令和2年度赤土等流出防止対策実践ツアー委託業務」の一環で計3回実施するバスツアー。OECと沖縄教育旅行社の共同企業体で受託した。実践と講義、体験がセットとなっており赤土等の土壌保全の重要性や、その流出を軽減させる手段、流出することによって発生する問題などについて啓発する目的がある。

1回目は、那覇市の児童クラブ3団体から、小学3年生以上の児童と先生に参加していただいた。

今回の目玉は、赤土等が沖縄の海に及ぼしている影響をグラスボートから観察する「サンゴ礁体験」。赤土等の流出などの影響で白化したサンゴ礁を目の当たりにした児童たちは一様にショックを受けたようだが、その後に元気で綺麗なサンゴ礁を見たり、魚に餌遣りしたりと海の楽しさを満喫していた。

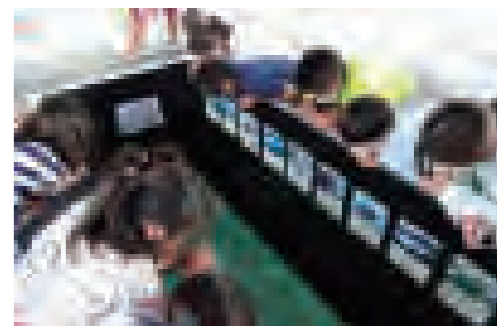
ツアー終了後、参加者からは、「赤土を海に流したら大変なことがわかった」、「赤土等の流出を防ぐためにできることがあ

る」などの感想を聞くことができ、楽しくしっかりと学んでもらえた実感した。

(研究員 高嶺正満)



赤土実験の結果を講師が解説



赤土等の堆積状況を確認中